

令和4年度 第1回学校評議員会 議事録

1 日 時 令和4年7月14日(木) 15:00~16:30

2 会 場 本校視聴覚室

3 出席者 学校評議員 4名(欠席1名)

学校職員 校長、副校長、事務長、総務主任、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、保健主事、  
電子機械科主任、建設環境科主任、総務部担当

4 進行 総務部担当

5 記録 総務部担当

6 内容

(1) 委嘱状交付及び校長挨拶

(2) 令和4年度学校運営方針について(校長)

(3) 学校概況説明(副校長)

ア 今年度の在籍数と令和3年度卒業生の進路について

イ 令和4年度卒業予定者の進路希望について

ウ 資格取得について

エ 授業アンケートについて

オ クラブ活動について

カ 学校評価について

キ 令和4年度高校の魅力化促進事業について

(4) 令和4年度重点目標について(各主任より)

(5) 意見交換

進 行：学校評議員の皆様より、本校に対する率直なご意見やご要望、ご質問などをいただきたいと思  
います。

A 評議員：工業高校の生徒数減少の改善策として、各中学校に工業高校の校報などを掲示してもらい、中  
学生に身近に感じてもらうといいと思います。さらに、生徒の現在の頑張りを中学校にお知ら  
せするのもよいと思います。

B 評議員：中学校では、久慈工業高校の校報「久慈工魂」はいただいております。大版で各学級に貼っていま  
す。先日、高校説明会があり、どの高校も生徒数の確保のため必死です。子どもたちも高校の  
選択に迷っています。列車で通う子どもたちはお金がかかるとは思いますが、何かそれに対する  
支援などはあるのでしょうか。

総務主任：野田村の支援と県の支援があります。野田村からは下宿や通学、制服などの援助をいただいで  
います。

校 長：久慈工魂第6号にも助成について載せています。「久慈工業を守り育てる会」という組織があ  
り、三陸鉄道を使った通学や下宿などに援助をいただいております。

C 評議員：生徒数が少ないからこそ、より学校外と繋って取り組まれていると感じました。生徒理解調査  
の話が出てきましたが、実際にどのような支援をしているのか、お聞きしたいと思います。

保健主事：生徒理解調査の結果は担任に配布しています。また、スクールカウンセラーが来校し、生徒や  
保護者の悩みや相談を受け付けています。特別な支援が必要な生徒は、支援員が授業のサポー  
トをします。

C 評議員：久慈東高校の生徒が、作ったお花などを役場やねま〜へ紹介に来てくれます。工業高校の場合も、製作したもののお披露目会が校外であると良いと思います。

校 長：先週、本校で地区の中高の学校長会の会議が行われ、電子機械科で作った校章を差し上げましたが、大変喜んでいただきました。工業高校のものづくりで、地域に貢献できるかもしれません。

教務主任：野田村文化祭の展示部門に、毎年生徒の製作したものや委員会活動の紹介パネルを展示しています。また、建設環境科の建築コースの生徒たちが作った家具を展示する建築展を久慈市の会場で行っているの、野田村での開催があってもいいのかもしれない。

校 長：D 評議員さん、役場の1階のロビーに置かせてもらうことはできますか。

D 評議員：大丈夫だと思います。ベンチや誕生の祝いの椅子など、いろいろなことを取り組んでいただいているので、あとはそれを知ってもらう方法だと思います。

校 長：野田村の広報には必ず掲載され、紹介をしていただいています。

C 評議員：野田村の文化祭では高校生が精密に作った書類箱を購入したことがあります。買うことで工業高校の応援になると思います。生徒たちにとっても、自分たちが作ったものを地域の人がどのように喜んで手に取って購入しているかは、大変面白いと思います。

A 評議員：新しくできる道の駅に、工業高校さんの作品を展示・販売するのも良いと思います。

B 評議員：前任校のとき、子どもたちはものづくりや資格、就職に強く、列車通学もでき、ソフトテニスが強くて、給食もある学校がいいということで、それに全て合致するのが工業高校でした。秋頃に工業高校の生徒が中学校に実演に来たときに、それを見た子どもたちがはまり、工業高校に入学しました。工業高校で学んでいることを先輩が教えてくれることが、とても有効だと思います。

進 行：最後になりますので、ご提言をいただきたいと思います。

A 評議員：高校のときの友達は、大人になってもずっと関係が続ける人が多いと思います。昨年、修学旅行もできましたし、友達関係を深くしていける場になればいいと思います。卒業生が魅力的だと、その学校も魅力的になると思います。そして、先生たちが元気で明るく対応していただければ、もっと良い方向にいくと思います。

D 評議員：私の息子がお世話になって改めて感じましたが、素晴らしい学校だと思います。人数が少なければ少ないでメリットの部分もあります。修学旅行もお陰様で1年延期して行かせていただきました。近隣の学校は全て中止でしたが、そういう良い面もあると思います。

B 評議員：本当に子どもたちを伸ばしてくれる学校だと思います。忘れられない言葉ですが、工業高校の先生が来てくださったときに、「工業高校はありがとうという言葉をお金に変える学校なんだよ。」というお話をされました。つまり働いて人様のためになり、それが自分のお金になるという言葉をしていただき、子どもたちが大変興味を持ちました。ぜひPRを続けてください。

C 評議員：復興で野田村も新しいものができましたが、その保守点検・管理や大きな揺れがあったときに頼れるのが、専門の知識や技術を持った人材が地域にいることだと思っています。学校がピンチということは、もしかしたら、久慈管内の専門の会社や大人が生徒数の確保について考えて、何とかしていかなければならないのではないかと感じました。また、料理部が協力している野田村パエリアのプロジェクトでは、地元の食材を生かして、5～6人の料理部の生徒が実演してくれました。そのパワーが地域のイベントの活性化にとってもなっていたと思います。工業高校の生徒が輝いている姿を、もっと地域も応援したいと思います。